

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第五十四話

「上貫気別の話」(要約文)

【アイヌコタンの強制移住について】

姉去村(現大富)は、もともとアイヌ民族のコタンがあった場所です。かつて、軍馬や農耕馬を育成していた御料牧場は、姉去の土地が肥沃であったことから、この場所を穀物飼料畑として活用することに決めました。そのため、御料牧場は姉去コタンに住んでいたアイヌ民族を平取の上貫気別に移住するよう、半ば強制的に促しました。上貫気別は過酷な環境下にあり、新しい土地での居住は困難を極めたといえます。大正五年のことです。

【上貫気別での生活くおじいさんの語り】

大正五年四月、俺が子どもの時に貫気別に行ったのだ。家族共々、ドサンコ馬に荷物を積んで向かった。この場所に行くいきさつは聞いていたよ。御料牧場があって、アイヌがいたら邪魔になるということ、貫気別に広い土地があるから、そこに割り当てられて住むことになった。まあ、追われたようなものだ。そこででは、アワやヒエを作っていた。けど生活は言葉に表されないような生活です。貧乏所帯だったからね。小さい時から親の手伝いをしながら学校に通った。弁当は、ソバを粉にしてそれを餅としてこしらえる。これを弁当にして持って行ったね。でも、食

べ物が足りなくて弁当を持っていけないこともあった。人が食べているのを黙って見ているのもいやだから、そういう時は外へ出て遊んでいた。当時の家は、ヤチダモを切つて割り、それを囲つてつくつた簡単な造りだ。屋根はカツラの木の皮やカヤを使った。家は二間や三間くらいの広さで、高さはあまりない。床は板や木の皮を敷いていた。

そして終戦になつて新冠に戻つてきた。その理由は、とにかく終戦当時の食糧難で、上貫気別のような作物が満足にとれない所よりは新冠に戻つた方が良いとのこと、決意したので。俺の他、二十戸くらい引越したと思う。亡くなつてしまつた人もたくさんいるから、そんな数しか戻つて来ていない。上貫気別という所は、医者にかかるためには平取の町まで下がらなくてはならない。だから、重い病気にかつたら大体死んでしまう。仏を拜むこともない。本当の無縁仏になる。結核で死ぬ人が多かった。昔は結核にかつたらかかりつばなしだもの。やせ細つて死んでしまうのだ。



平取町上貫気別の墓地。ここには、新冠のアイヌ民族の無縁仏が眠っている。

春の全国交通安全運動が実施されます!! (4月上旬)

- 子供と高齢者をはじめとする歩行者の安全確保
- 自転車の安全利用の推進
- 歩行者等の保護をはじめとする安全運転意識の向上
- スピードダウンと全席シートベルト着用 **静内警察署**

火災・救急出動状況		() かつこ内は前年同期	
区分	火災件数	救急件数	
2月	0件(1件)	18件(22件)	
5年1~2月	0件(1件)	46件(54件)	
交通事故発生状況		() かつこ内は前年同期	
区分	発生件数	死者	傷者
2月	0件(0件)	0人(0人)	0人(0人)
5年1~2月	0件(1件)	0人(0人)	0人(2人)

人のうごき

(令和5年2月末現在)

人口	5,187人	(前月比 + 2人)
男	2,577人	(前月比 - 1人)
女	2,610人	(前月比 + 3人)
世帯	2,791世帯	(前月比 + 6世帯)

町公式ホームページ



町公式フェイスブック

